

1. 評価結果概要表

平成 20 年 4 月 30 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401095		
法人名	サテラホーム有限会社		
事業所名	グループホーム サテラホーム		
所在地	札幌市西区発寒 1 1 条 4 丁目 5 番 1 号 (電 話) 0 1 1 - 6 6 7 - 8 7 8 7		
評価機関名	北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北 2 条西 7 丁目かでの 2. 7		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月30日

【情報提供票より】 (2 0 年 2 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 1 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 1 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	45,000 円	その他の経費 (月額)	16,500 円
敷 金	有 45,000 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (3 月 2 1 日 現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護 1	4	要介護 2	4
要介護 3	7	要介護 4	1
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 82.5 歳	最低 72 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	琴似ロイヤル病院・静明館診療所・平川歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の生活の場は事業所の中だけでなく、日常的に外出する機会が多く持たれ、全員が生き活きと暮らしている。職員研修は内外ともに参加者が多く、ケアの質の向上に取り組んでいる。また、訪問の看護師によるミニ学習会を開催し、良い学びを継続している。町内会には利用者が個別に会員として会費を払い、行事の参加など親しい関係づくりがなされている。災害時連絡網に町内会役員が加わり、事業所と地域との協力体制が整っている。24時間テレビに支援するなど、管理者、職員は暮らしの多様性を模索して努力し、活気のある事業所となっている。職員は「サテラ便り」の他に、それぞれの家族宛に、利用者の日常の様子を詳しく手紙に書いて送付している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目 : 外部4)</p> <p>前回の改善点である緊急時の手当については、消防署員による救命救急講習を年 2 回受講し、他の事業所にも呼びかけてともに学びをしている。さらに、看護師によるミニ学習会を毎月開催し、職員のレベルアップを図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 : 外部4)</p> <p>管理者と職員は、自己評価の項目について書面で確認し、話し合いで検討しながら、質の向上を目指して取り組んでいる。「サテラ便り」にて評価について報告している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 : 外部4, 5, 6)</p> <p>2 か月ごとの運営推進会議では、町内の方々や家族、関係機関も含めて活発な意見交換があり、地域の方々の避難訓練参加と連絡網の作成など、具体的な取り組みがなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目 : 外部7, 8)</p> <p>事業所内に苦情窓口を設けているが、ほとんど利用がない。さらに公の苦情相談窓口も家族に紹介している。家族の来訪時には、管理者、職員とは話しやすい間柄になっている。家族に信頼される事業所となっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目 : 外部3)</p> <p>事業所は町内会に加入している。さらに利用者一人ひとりも町内会会員となって総会に出席している。地域住民対称の講演会《認知症の理解を深めるために》を事業所単独で開催したり、24時間愛は地球を救うのキャンペーンにも参加するなど、地域住民と共に協力し合い、親しい関係になっている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと自由にありのままに」の事業所独自の理念を掲げ、地域の中で暮らす取り組みがなされているが、地域密着型サービスの意義を盛り込んではいない。	○	独自の理念の中に、地域密着型サービスとしての具体的な言葉を文章化する事が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の書かれたカードを常時携帯し、実践に向けて確認しながら、ケアに携わっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が町内会に加入することはもちろん、さらに、利用者一人ひとりも町内会に加入し、会員としてのつながりを重視している。地元の方々と日常的に交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、評価項目について書面で確認し、更に話し合いで検討し、質の向上に取り組んでいる。		

グループホーム サテラホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議では、町内の方々や家族、関係機関も含めて活発な意見交換が行われ、町内と事業所との連絡網も作成されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者会議などを通して、行政との連携が良好となり、信頼される事業所づくりに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「サテラ便り」を発行し、金銭報告・定期健診の報告などを家族に行っている。更に、個別に利用者の様子を手紙にて、毎月報告している。急ぎの知らせは、電話で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情窓口を設け、更に公の苦情窓口の紹介などわかりやすくしている。面会時には、気軽に相談できる体制になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ職員の異動は最小限に抑える努力をしている。また、異動時には利用者に混乱が起きないように、職員間で細心の注意を払い支援している。		

グループホーム サテラホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員のレベルに合わせて適切な研修が受講できるように配慮している。他の事業所と合同の職員研修も企画して行なわれ、事業所の研修年間計画が作られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一区内の2～3事業所と合同の職員研修を当事業所が企画して呼びかけ、職員の質の向上に向けて取り組んでいる。また、利用者同志も月に1度喫茶店を貸切り、カラオケを楽しむ交流が開始された。餅つき時には、他の事業所からも参加して賑やかであった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族との面接や事業所見学など、事前の話し合いを重視している。入所以前の担当介護支援専門員から助言を頂き、馴染めるように家族と相談し工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の出来ること、出来ないことを把握し、掃除、洗濯、調理など教えて頂く場面づくりや声かけを行っている。		

グループホーム サテラホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者と担当の職員は利用者に寄り添い、希望や意向に沿うように、相談しながら、取り組んでいる。管理者はイベントや楽しい行事を取り入れ、利用者と職員も参加して、感動を共に分かち合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の毎日の暮らしは生活日誌に介護計画と連動しながら記録されている。ユニットごとに毎月カンファレンスで全職員と話し合い、活発な意見交換をして介護計画を作成している。介護計画は家族に送付し意見を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者は全体の状況を把握して適切な助言をしている。計画の見直しは3ヶ月を目途に実施しているが、状態の変化には即対応し、現状にあった介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の希望で、事業所として出来る限りの支援をしている。旅行を楽しんだり、買い物、通院介助など日常的に柔軟に対応している。		

グループホーム サテラホーム


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診をはじめ、毎週医療機関の看護師の訪問を受け入れている。日常の健康については、気軽に相談できる仕組みになっている。外来通院も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時「重度化介護に関する指針」「看取りに関する指針」を提示して家族に説明している。利用者の状態に応じて、家族や関係者と話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、個人情報了他にももらさないと言う誓約を提出し、利用者の写真の掲載には同意書を頂いている。職員の対応にも配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課としてラジオ体操に取り組んでいるが、強制ではなく自由参加で、利用者に楽しんで頂いている。食事のペースも一人ひとりに合わせ、個性豊かな暮らしが本人本位に継続されている。		

グループホーム サテラホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に至るまでの過程で、買い物の同行、調理の手伝い、配膳、下膳、食後の片付けなど出来る事を共にし、出来ない利用者も見守りで参加し、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね週2回を目安で入浴支援が行われているが、利用者の希望によって毎日の入浴にも対応している。ゆったりした浴室で危険のないように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ることを見守り、職員と共に家事や畑作業、ゴミ出し、郵便物の受け取りなど、その人らしい役割が自然体でなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、年間行事に見られるように、外出が多く日常的に楽しみを体験している。その他にも、個別の対応で外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけていない。利用者や来訪者の出入りの時は、戸の開閉が把握できる呼び鈴を設置し、開放的で安全に過ごせる工夫がされている。		

グループホーム サテラホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所では、利用者と職員に家族や地域住民を加えて、避難訓練を年2回実施している。また、玄関近くの目に付く場所に、緊急時のための食品や避難用具を用意し、点検もしている。連絡網は町内会も含まれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者の希望や好みを配慮して献立を作成し、北海道栄養士会の点検をいただき、一人ひとりの食事量や水分摂取量を毎日チェックをしながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の中心にゆったりとした食堂と居間があり、利用者がそれぞれ落ち着く居場所が確保されている。車椅子や歩行器でもゆっくりと過ごすスペースがある。廊下の飾りつけなど工夫があり、利用者ばかりでなく来訪者も安らげる、温かみのある造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の入口にはセンスの良いのれんが掛けられたり、室内には馴染みの調度品が持ち込まれ、落ち着いたその人らしい個室になっている。		

※  は、重点項目。